

2019年度決算について（概括）

2019年度は第2次中期計画の2年次にあたり、教職員が一体となって財務改善計画の達成に向け努力してまいりました。収入面では、大学において特別補助金や、中高において施設整備補助金等の獲得を図りました。また、最終年度を迎えた130周年記念募金や大口寄付者等からの寄付金により収入面では計画以上の数値を確保することができました。一方、支出面においては、賞与の臨時的削減措置の緩和を実施したことから前年対比人件費が増加しましたが、全体では計画以上の削減を実施することができました。また、施設整備・教育環境整備とも予定通り行い、減価償却引当特定資産の繰入も昨年度に引き続き実施しました。

以上の結果として、当年度の資金収支差額は、42百万円の赤字、翌年度繰越支払資金は10億9百万円となりました。

今後とも第2次中期計画に基づき、財務改善方策の着実な実行により、収支均衡のとれた安定的な学校運営に努めてまいります。

以下2019年度決算について財務三表に沿って概括します。

1. 資金収支について

資金収支計算書は当該年度に行った教育研究活動およびこれに付随する活動の全ての収入と支出の内容及び、支払資金(現金・預金)の顛末を明らかにするもので、企業会計ではキャッシュフロー計算書に相当するものです。

(1) 収入の部

法人全体では、資金収入合計3,243,357千円に前年度繰越支払資金1,051,471千円を加えた収入の部合計は4,294,828千円でした。学生生徒等納付金収入は、大学の学生数減少により、前年度決算と比較すると42,240千円減少の2,238,773千円となっています。また、補助金収入については、大学において特別補助金や中高の施設整備補助金獲得等により前年対比42,468千円増加の639,656千円となりました。このほか、寄付金収入については、130周年記念募金や一般寄付金、特別寄付金等により実績は、予算を85,399千円上回り前年対比46,539千円増加の114,599千円となり、前年度に引続き収入部門増加の要因となりました。

以上の結果、収入合計額は、予算を122,164千円上回る4,294,828千円となりました。

(2) 支出の部

資金支出合計は、予算を95,054千円下回る3,285,065千円となりました。

人件費につきましては、2,044,913千円で前年対比36,838千円増加しました。その内訳としては、賞与の臨時的削減措置を緩和したことや、新給与制度移行に伴う現給補償を行ったことによるものです。

教育研究経費支出につきましては、479,495千円で、予算を82百万円下回り、前年対比115百万円の減少となっております。前年は豪雨災害復旧に係る費用を102百万円支出しており、それを除く実質前年対比減少額は13百万円となっております。また、管理経費につきましては、257,783千円となり、ほぼ前年実績通りで予算を8百万円下回っています。借入金利息支出は、前年対比1百万円減少の9,523千円となっております。

施設関係支出につきましては、計画に基づき、学生・生徒等の安心・安全で快適な教育環境の整備に努めた結果、90,504千円となりました。具体的には、大学のソフィア1号館実習室の改修工事、中高ゲーンズホール照明機器の更新工事等を実施しました。

設備関係支出は教育研究用機器備品の更新等、環境整備を行った結果、57,395千円となりました。資産運用支出については、中高体育館の建替えを目的とした減価償却引当特定資産の繰入を継続実施したことから、50,326千円となりました。

以上の結果、翌年度繰越支払資金は前年対比41,708千円減少し、1,009,763千円となりました。

2. 事業活動収支について

事業活動収支計算書は当該年度に行った教育研究活動に必要な諸経費の支出と収入から基本金組入額を控除した収支の均衡状態を明らかにし、経営状態を表すもので、企業会計では損益計算書に相当するものです。

(1) 教育活動収支

教育活動収入の合計は、3,063,553千円で、予算を59百万円上回り、前年対比191百万円の減少となっております。前年対比減少の要因は、学生数減少に伴う学納金収入が42百万円、前年度は豪雨災害保険金の雑収入132百万円の特殊要因があったこと等によるものです。教育活動支出は、予算を80百万円下回り、前年対比84百万円減少の3,233,040千円となっております。このうち退職引当金繰入を含めた人件費総額は、前年対比35百万円増加の2,034,122千円となり、経常収入に占める人件費比率は66.4%となりました。教育活動収支差額は、前年対比107百万円マイナスの△169,486千円となっております。教育研究経費934,715千円、管理経費264,203千円のうち減価償却の合計額は前年対比3百万円減少の460,884千円となりました。

他の収入、支出の内訳については、資金収支と重複しますので省略します。

(2) 教育活動外収支

教育活動外収入は受取利息1,518千円で、教育活動外支出は借入金利息9,523千円となり教育活動外収支差額は△8,005千円となっております。

教育活動収支差額を合算した経常的な収支状況である経常収支差額は、前年対比106百万円マイナスの△177,491千円となりました。

(3) 特別収支

特別収入は、中高等への施設設備寄付金 58,030 千円、施設設備費補助金 6,959 千円と現物寄付 6,590 千円を合計した 71,580 千円で、特別収支差額は 63,365 千円となっています。

(4) 基本金組入前当年度収支差額（経常収支＋特別収支）

基本金組入余力がどの程度あるのかを表す基本金組入前当年度収支差額は△114,126 千円となり、引続き厳しい財政状況となっています。

(5) 基本金組入額

学校法人を維持するために必要な資産を継続的に保持するための組入れであり、268,023 千円を計上しています。過年度に整備した施設の借入金の返済による組入 123,880 千円や当年度中に行った建物・構築物の改修工事、教育研究用機器備品等の購入による増加額 144,143 千円を組入れたものです。

(6) 当年度収支差額

基本金組入額を加えた当年度収支差額は、△382,149 千円で、翌年度繰越収支差額は△10,879,360 千円となりました。

3. 貸借対照表について

当該年度末における資産、負債の内容、純資産の額を明らかにするもので、基本金に対する純資産の過不足状態を繰越収支差額として表しています。

(1) 資産の部

① 固定資産

[有形固定資産] は前年対比 309,529 千円減少しました。

建物： 268,955 千円減少

主な要因 当期増加額 64,696 千円、当期減価償却額 333,651 千円

構築物： 7,690 千円減少

主な要因 当期増加額 25,808 千円、当期減少 6,749 千円、
当期減価償却額 26,750 千円

教育研究用機器備品： 34,244 千円減少

主な要因 当期増加額 58,043 千円、廃棄 16,197 千円
当期減価償却額 76,090 千円

その他： 管理用機器備品、車両が減価償却により 694 千円減少し、図書は購入、
廃棄により 2,055 千円増加となっています。

[特定資産]

減価償却引当特定資産の組入れと第3号基本金引当特定資産の運用収益組入れにより 50,170 千円増加しました。

[その他の固定資産]

貸与奨学金の返済等により長期貸付金が 9,378 千円減少、ソフトウェアが減価償却により 5,080 千円減少しました。

② 流動資産

法人全体では、60,578 千円減少しました。主な要因としては資金収支差額の赤字により現金預金残高が 41,708 千円減少したことと、退職者減少に伴い私学退職財団等からの交付金にかかる未収入金が 12,992 千円減少したことによるものです。

以上の結果、資産の部合計額は、前年対比 334,239 千円減少の 10,604,287 千円となりました。

(2) 負債の部

① 固定負債は 150,255 千円減少しました。

主な要因 長期借入金 △123,880 千円 退職給与引当金 △14,200 千円
長期未払金 △12,175 千円

② 流動負債は 69,857 千円減少しました。

主な要因 未払金 △57,172 千円 前受金 △10,419 千円
預り金 △1,775 千円 修学旅行預り金 △1,285 千円

③ 負債の部合計

220,113 千円減少の 2,908,228 千円となりました。

(3) 純資産の部

① 基本金は当年度組入等により 268,023 千円増加の 18,575,419 千円となりました。

[第1号基本金] 267,853 千円組入増加

固定資産取得増加や2019年度中に支払の借入返済および未払金支払に係る組入から除去に伴う基本金額を差引した額

[第3号基本金] 170 千円組入増加

特定資産運用収益を今年度組入れた額

② 繰越収支差額

[翌年度繰越収支差額]

資産合計 10,604,287 千円— (負債合計 2,908,228 千円+基本金合計 18,575,419 千円) = △10,879,360 千円

以上の結果、基本金から翌年度繰越収支差額を減算した純資産の部合計額は、前年対比 114,126 千円減少の 7,696,059 千円となりました。